

第 3635 図

た  
で  
科



第 3636 図

う  
ま  
の  
す  
ず  
く  
ら  
科



第 3637 図

う  
ま  
の  
す  
ず  
く  
ら  
科



しんみずひき

*Polygonum filiforme* Thunb.  
var. *neofiliforme* Ohwi

(= *Tovara neo-filiformis* Nakai;  
*T. filiformis* Nakai var. *neo-filiformis* Makino)

山地に生ずる多年生草本で、茎は高さ30-80 cmで中空、上部には伏毛があり、葉鞘は長さ1-2.5cm。葉は互生し、楕円形で両端は長く尖り、長さ8-20cm巾2.5-9cm、質はやや厚く無毛又は短い毛を散生する。夏秋、枝先に長い鞭状の花序を出し、やや疎に赤色の小花を横に向って開く。萼は4深裂し、無花弁、5雄蕊。瘦果は長卵形でレンズ状平滑、長さ3mm内外、先が鈎状に曲った2花柱が宿存している。ミズヒキに比べ、葉は長味があり鋭く尖り、質は少し厚くほぼ無毛、上面は脈が殆ど凹まず平らな感じで、果はやや大きい。

さかわさいしん

*Asarum sakawanum* Makino

(= *Heterotropa sakawana* F. Maek.)

四国土佐の西半部の低山地に限って産する特殊のカンアオイの類で、常緑多年生草本。地下茎、葉状は他の種類とほとんど区別がない。秋に芽がふくらみ、次年の4-5月に根際で大輪の花をつける。花は点頭、萼片3個は兎の耳状に長く3-5cm、肉質で硬く、内側は濃紫黒色光沢があり、縁は白く隈取る。基部には小凸起が密布しその中央に小孔があって外側もくびれ、萼筒は偏圧された下膨れの短筒形で壁厚く、内側には縦の襞(ひだ)が通っている。子房下位で平坦な子房上面に棒状の6花柱、12雄蕊及び退化した短棒状の花弁3個が集合している。和名は最初に著者が郷里佐川で発見したのに因む。

たまのかんあおい

*Asarum tamaense* Makino

(= *Heterotropa tamaensis* F. Maek.)

関東地方多摩川附近の丘陵に特産する多年生草本。高さ10cm位、茎は葉柄と共に肉質で暗紫色、葉は円卵形、円頭深心脚、長さ5-13cm多少肉厚く、表は光沢あり深緑色、屢々白い雲状紋があり、立毛が散生し、脈は網眼を作って陥入している。花は4-5月に開き、暗紫色径3-4cm、萼筒は上部少しく開いた筒形で、入口に広いつばと突起が重なり、内部には格子目の隆起がある。萼片は広三角状卵形、縁辺がうねるのは蕾の時のひだの跡である。内側には短毛を密生する。子房中位、花柱と柱頭とは長靴を逆にした様で、これをとり巻いて両様の12雄蕊が交互する。和名は産地多摩丘陵に基づく。

ほさきやどりぎ

*Loranthus Tanakae* Fr. et Sav.  
(= *Hyphear* Tanakae Hosokawa)

中部から北部の落葉樹林帯に産し、主にミズナラに寄生する落葉小灌木。朝鮮中部にも亦産する。根本から数枝に分枝し、枝は直線的、本年枝は濃紫褐色で光沢強く、冬を越すと灰色がかった処々かいはげる。葉は対生、さじ状の長楕円形、長さ3cm内外、肉質で少数の脈は軽く隆起、基部は短い柄となる。夏に枝端から穂状花序を出して黄緑色の小花を開く、花は柄がなく、太い子房の上に4-6個の花被片と6本の雄蕊を持つ。秋おそく果実は淡黄色の球形の漿果となり穂は垂れる。不整の楕円形で、長さ5mm程度。

き み ず

*Pellionia scabra* Benth.

房総半島から以西の暖地、林内の陰湿地にはえる多年生草本乃至亜灌木、高さ30-50cm、全体に暗碧緑色で粗雑な感がある。茎は円柱状、下部は冬を越すが上部は屢々枯れる。伏した毛があるが、立毛の株もある。葉は茎の上部に互生、無柄、質脆く、長さ4-8cmのゆがんだ披針形で前方に向かって軽く彎曲、上半部に疎の鋸歯、側脈は主脈に対して開出し、表はざらつき、裏は淡緑色。図は雌株で、花は葉腋に密集し、瘦果は褐色で小凸点がある。雄花序は茎の上部に腋生し、柄のある疎花の聚繖花序で、長さ2-3cm、和名は木性のミズの意。

みやまみず

*Pilea petiolaris* Blume

伊豆以西の暖地、林縁の多湿地にはえる多年生草本。地上部も冬若干残る。高さ50cm内外、全草明るい緑色で、しかも多汁で柔軟、茎は叢生し、平滑、稍々角張り、節の上方に稍々紫色を帯びた膨らみがある。葉は長柄で対生、楕円形で長さ10cm内外、上部に尾状に尖り、端正な鋸歯、強い光沢、それに網目状に打こんだ脈を持つ。上部の葉では長さ2cmに近い楕円形の葉前托葉の存在が著しい。花は雌雄で花序を異にし共に腋生、雌花の花被は本来3枚だが1箇所を残して殆んど癒着する。瘦果はそれより長く、褐色の点があり、長さ2mm。

第 3638 図

や  
ど  
り  
ぎ  
科



第 3639 図

い  
ら  
ん  
さ  
科



第 3640 図

い  
ら  
ん  
さ  
科

